



# BAG LIMITS

## バッグリミットの目的と意義

Imposing Bag Limits Onto Us, Voluntarily

釣った魚の持ち帰り尾数を、日本の釣り団体として初めて規定したJGFAバッグリミットは、誕生から早や16年が経とうとしています。JGFAが提唱する「いい釣りをいつまでも。」のいい釣りとは、釣った魚の命を気ままに奪ったり、無分別にクーラーを一杯にしたり、あるいは食費の足しにすることではありません。釣りを始められたばかりの人からベテランまで、いつ行っても魚がたくさんいて、さまざまな楽しみ方ができる、そんな釣りができるようにとの想いが込められています。

海外の有名な釣場の多くは国内外の釣り人がいつ行っても「いい釣り」ができるよう、またその地域の釣り産業が衰退しないよう、法律的に強制力のあるバッグリミットを設け、釣魚保全に努力しております。日本の釣場も将来的にはそうあってほしいもの。今後は釣りを取り巻く関係者の皆様と、このバッグリミットについての議論を進めていきたいと考えています。私たちは、多方面に存在する関係者の合意のもとで、釣魚保全のために公的なバッグリミットが設定されることを心から望んでいます。

JGFAの提案するバッグリミットは、そのような考え方に基づいた任意のガイドラインであり、魚の資源状況によって例外もありますが、それぞれの対象魚が成熟年齢に達し、一度は産卵して子孫を残せる最小サイズを考慮した上で、持ち帰る場合でも食

べるのに十分な尾数を想定しています。

釣った魚を素早く丁寧にリリースすることは、釣り場再生への近道です。夢のある「いい釣り」ができるフィールドの未来は、私たちの手に掛かっています。限りある天然資源をとりまく環境を意識して、自分たちができることから始めてみましょう。

### 「大型魚を残すという意義」

IGFAルールによる世界記録・日本記録を樹立するということは、長い年月を生き抜いた老成魚をフェアに狙って釣ることを意味しています。全体量のごく僅かしかいない老成魚に成長するためには、魚種によって何十年もの時間が必要となります。我々ゲームフィッシャーは求めてそういうトロフィーサイズを狙っているのです。釣りをして自己最大魚が釣れれば嬉しいのですが、だからと言って釣れたそばから大型魚を殺してしまっては、よりたくさんの卵を産み、大型化できる優れた遺伝子を持つ将来の記録魚はその時点で失われてしまいます。

# JGFAのお勧めするバグリミット

## 【海水魚】

No.	魚種名	持ち帰りサイズ	尾 数	備 考
1	アイナメ	30cm以上	3	アイナメは2歳30cmで成熟するので、未成魚の保護が必要。40cm以上はほぼメスで、成長も遅くなるので、大型魚の保護のために40cm以上についてもリリースが望ましいです。
2	アカムツ		乱獲を慎みましょう	近年、人気上昇に伴う漁業・遊漁による過剰な漁獲により資源量の減少が著しい魚種です。元々生息数の多い魚ではないので美味しい、面白いからといって乱獲に加担することのないようにしましょう。
3	アジ類	10cm以上	30	資源量は今のところ豊富な魚種ではありますが、各家庭で美味しくいただける量だけを持ち帰りましょう。
4	アラ、イシナギ、アブラボウズ、クエ、マハタ		乱獲を慎みましょう	生息数が少ない貴重な大型魚です。資源の減少を抑制し、いつまでも狙って釣れる環境を維持するように心掛けましょう。
5	イサキ	25cm以上	10	イサキは22cm前後で成熟します。未成魚の釣獲は控え、各家庭で美味しくいただける量だけを持ち帰りましょう。
6	イシガキダイ		オールリリース (記録対象魚は除く)	磯魚の王も大物はめっきり釣れません。30年以上危機的状況が続いています。
7	イシダイ		オールリリース (記録対象魚は除く)	磯魚の王も大物はめっきり釣れません。30年以上危機的状況が続いています。
8	イシモチ類	20cm以上	10	イシモチは20cm前後で成熟します。未成魚の釣獲は控え、各家庭で美味しくいただける量だけを持ち帰りましょう。
9	カサゴ類	20cm以上	10	根魚は定着性が高く、釣獲圧が高まるとすぐにその釣り場からいなくなってしまいます。同じ釣り場からの持ち帰りが続かないように注意が必要です。
10	カジキ類	サイズ問わず	1(1ポートにつき)	基本的にリリースが望ましい大型魚です。キャッチは最小限にとどめ、いつまでもカジキの釣れる海を守っていきましょう。
11	カツオ	40cm以上	2	近年、日本近海に回遊してくるカツオの数が減っています。世界的に見れば資源量は危惧するような状態ではありませんが、生息域の端にあたる日本への回遊は、生息数の減少と共に顕著に減っています。鮮度が落ちるのが早い魚もありますので、1家庭で2尾もあれば十分な量でしょう。素早くリリースすれば元気よく帰っていきます。
12	カレイ類	25cm以上	5	カレイ類の多くが20cm前後で成熟します。各家庭で新鮮なうちに美味しくいただける量を持ち帰りましょう。
13	カワハギ	18cm以上	10	本来30cm以上になる魚です。カワハギ釣りはゲーム性も高い上に、リリース後の生存率も高い魚種です。皆が釣りたい大型のカワハギを育むためにも、必要数以上はリリースを心掛けましょう。
14	カンパチ類	40cm以上	1	カンパチは50kgを超える大型魚です。未成魚の釣獲を抑制することで、大型魚を育成しましょう。
15	キジハタ	35cm以上	2	ハタ類は資源の減少が著しい魚種が殆どです。魚種に応じ、未成魚の釣獲は控えましょう。また、深場から釣り上げたハタ類は潜れなくなることが多いので、リリースシグ等の用具を用意してから釣りに出かけましょう。
16	キハダ	100cm(または10kg)以上	1	クロマグロの次に保護が呼ばれているマグロです。釣れる今こそ資源を大切にするムードを作っていきたいですね。
17	キンメ類 アコウダイ類等		乱獲を慎みましょう	中深海・深海の人気魚種でリリースの難しい魚種もあります。美味しいから、楽しいからと釣るだけ釣り続けると、これらのターゲットの釣り人口が増えていることもあり、あっという間に釣れなくなってしまうことが予想されます。必要数に近づいたら針数を減らす、必要数を釣って満足したらその日は納竿する、そして年間に釣り上げる数を限定することで、いつまでも狙って釣れる環境を維持することを心掛けましょう。
18	クロダイ類	40cm以下 (記録対象魚は除く)	1	クロダイの多くは一生涯を2km圏内で過ごすと言われています。稚魚放流も行われていますが釣り場のクロダイが減らないように努めましょう。

No.	魚種名	持ち帰りサイズ	尾 数	備 考
19	クロマグロ	30kg以上	1人毎月1尾	水産庁の定めるクロマグロ遊漁の管理措置に従ってください。資源の状態、釣りの状況を見て変更される可能性がありますのでご注意ください。
20	サバ類	30cm以上	10	サバは30~35cmで成熟しますので、未成魚の漁獲は控えましょう。たくさんいる魚のように感じますが、実は長らく乱獲が続き、以前と比べると大幅に資源量が低迷している魚種です。鮮度が落ちるのが早い魚として有名な魚でもあります。各家庭で新鮮なうちに消費しきれる量だけを持ち帰りましょう。
21	サワラ	50cm以上	3	リリース後の生存率があまり高くない魚種です。釣り過ぎないことで、いつまでも釣れる環境を維持することを心掛けましょう。
22	シイラ	70cm以上	1	船上で大暴れして危険ですしリリース不能にならないよう、シングルフックやバークレスフックを使い、抱卵魚や未成魚はできるだけ速やかにリリースしましょう。
23	シマアジ	40cm以上	3	オオカミと呼ばれる大型は15kgにも達するすばらしいゲームフィッシュです。資源的にはそう多くない魚ですので大切にしたいですね。
24	シロギス	15cm以上	30	各家庭で美味しくいただける量だけを持ち帰りましょう。
25	スズキ	60cm以下 (記録対象魚は除く)	1	スズキはおよそ45~60cmで成熟します。そして、成熟すると成長速度は極めて遅く80cmに達するのに10年以上かかると言われています。未成魚の釣獲は控え、貴重な大型魚を残すために60cm以上のスズキはリリースしましょう。汚染に最もさらされる魚種で東京都の自主規制で60cm以上は築地市場での売買が禁止されていました。産卵前後で食味の落ちる10月~翌5月はオールリリースが望ましいです。東京湾や大阪湾近辺のスズキ個体群は資源の減少が著しいとされています。
26	ソイ類	25cm以上	5	根魚は定着性が高く、釣獲圧が高まるとすぐにその釣場からいなくなってしまいます。同じ釣場からの持ち帰りが続かないように注意が必要です。
27	タチウオ類	70cm以上	5	タチウオが減ったという海域が増えています。未成魚はリリースし、1家庭で新鮮なうちに食べ切れる量だけキープしましょう。
28	ヒラスズキ		オールリリース (記録対象魚は除く)	スズキに比べ、生息域が狭く、生息尾数も少ない貴重な魚です。リリースのための十分な準備をし、リリースした魚が生き残れるような釣り方と扱いを心掛けましょう。
29	ヒラマサ	70cm以上	1日1尾	ヒラマサはおよそ70cmで成熟しますので未成魚はリリースしましょう。近年、生息数が減少している海域もあります。オールリリースが望ましい海域ではシングルバークレスフック等を使うなどして、リリース後の生存率を考慮したリリースを心掛けましょう。
30	ヒラメ	40cm以上	2	ヒラメは42~48cm前後で成熟すると言われています。未成魚の釣獲は控え、座布団といわれるような貴重な大型魚もリリースが望ましいと思います。
31	フグ類	20cm以上	10	各家庭で新鮮なうちに消費しきれる量だけを持ち帰りましょう。
32	ブリ	40cm以上	2	リリース後の生存率も高く成長も速い魚なので、未成魚をリリースすることで大きい魚が釣れるよ
33	マゴチ	40cm以上	3	生息数が多いとは言えない魚です。メスはおよそ40cmで成熟すると言われているので、未成魚の釣獲は控えましょう。
34	マダイ	60cm以下 (記録対象魚は除く)	2	最大で1メーターを超える大型魚です。未成魚の釣獲は控えましょう。乗っ込みといわれる時期は産卵期にあたり、味も一番落ちる時期ですのでリリースが望ましいです。また、60cmを超える大ダイは更なる大型へ向けた貴重な予備軍です。更なる大型を育むためにも60cm以上の真鯛はリリースしましょう。貴重な大ダイのリリース後の生存を考え、ファイト時間を短くし、速やかにリリースすることが大切です。浮袋が膨れやすい魚種ですので、リリースジグ等の用具の準備をしてから釣りに出かけましょう。
35	マダラ	70cm以上	3	マダラはおよそ60~70cmで成熟します。未成魚の釣獲は控え、各家庭で美味しくいただける量だけを持ち帰りましょう。深場から釣り上げることが多い魚種ですので、リリースジグ等の用具を準備してから釣りに出かけましょう。

# バッグリミットの目的と意義

## Imposing Bag Limits Onto Us, Voluntarily

No.	魚種名	持ち帰りサイズ	尾 数	備 考
36	メジナ類	30cm以上	2	イシダイと同じく定着性が非常に高く、釣りによる減少が如実に現れている魚種です。また、30cmに達するのに7年かかるといわれる成長の遅い魚であります。各々の釣り場は自分たちで守るつもりでリリースを心掛け、資源の回復を待つ必要が大いにあるでしょう。
37	メバル類	20cm以上	10	根魚は定着性が高く、漁獲圧が高まるとすぐにその釣り場からいなくなってしまいます。同じ釣り場からの持ち帰りが続かないように注意が必要です。
38	ロウニンアジ		オールリリース (記録対象魚は除く)	威風堂々とした見た目とは相反し、釣り上げられるストレスに対し弱い魚です。リリース後の生存率を高めるためにも、シングルバーブレッフックの使用を推奨します。そして、リリースのための十分な準備をして釣りをし、いつまでも狙って釣れる環境を維持するように心掛けましょう。

### 【淡水魚】

No.	魚種名	持ち帰りサイズ	尾 数	備 考
1	アカメ		オールリリース	生息域が限られており、JGFAの記録申請でもリリース前提としています。
2	イトウ		オールリリース	//
3	ビワコオオナマズ		オールリリース	//

★その他の淡水魚で釣り対象となっている魚は、原則的に漁業協同組合の遊漁規則のサイズ、尾数に従ってください。

- このバッグリミットの数値はあくまでも推奨値であって、強制ではありません。ご自身の指針になさってください。
- 記録対象となるサイズについては例外といたします。(「IGFAの見解:数少ない記録対象魚の捕獲は、全体的な資源減少には影響はない」に基づく)
- 魚種欄がグレーで示されている魚をリリースする際は、リリースツールなどを用意してリリースされるようお勧めいたします。
- このバッグリミット表にない魚種に関してもご自身でバッグリミットを設定し、釣魚保全にご協力ください。

